

特別助成 東日本大震災の被災者を元気づける事業 (コミュニティ強化支援)

「石巻の高校生がまちづくりに参画するための事業 (カフェ事業の強化)」事業

高校生たちが地域を知ること 自分たちができる復興の形を追求

石巻市役所が入るJR石巻駅前の商業ビルの1階にある「いしのまきカフェ」(かぎかつこ)。震災後、地域のために何かしたいという高校生たちが参加して立ち上げたカフェである。カフェでの接客にとどまらず、積極的に地域に出ることで自分たちの視点で石巻の魅力を再発見し、情報発信する活動に取り組んでいる。



高校生たちが調理・接客を行う、「いしのまきカフェ」(かぎかつこ)



オープン前のミーティング

地域のために何かしたいと考える高校生が40名集って立ち上げた石巻のカフェ

2012年11月、フィリップモリスジャパンと日本財団による東日本大震災の被災地の子ども支援共同プロジェクトの一環としてオープンした、いしのまきカフェ「」。

「当時は高校生世代を対象とした支援活動はほとんどありませんでした。高校生といえばそれなりに大人であり、いろいろなことが考えられる世代。それだけに、震災で受けた心のダメージは大きい。その一方で、被災した地域のために何かしたいと真剣に考えている高校生たちが多かった。彼らや彼女たちに成長していく場や機会を提供できないかということでカフェがスタートしました」と語るのは、カフェの企画・運営にあたる「かぎかつこPROJECT」の神澤祐輔さん。

地元の高校生約40名が集まり、お客様との触れ合いを通して地域に元気を与えることができるのではないかと考えたのもと、メニューや商品開発、空間デザイン、情報発信の3チームで役割分担しながらカフェ作りを進めた。オープン後は、シフトを組み、土・日曜や長期休業中にカフェでの接客も行った。

学校やアルバイトでは経験できない学びの場、社会体験の場として機能してきた、いしのまきカフェ「」。「2014年には法人化を目指して『かぎかつこPROJECT』を発足させましたが、2015年は活動の継続と発展を目指し、カフェ事業や地域とのつながりを強化するための基盤づくりをしようと思い、その資金としてAJOSCに助成を申請しました」と、神澤さん。

地域に出ていくことで 地元の魅力を再発見し、 その情報発信を通じて成長の糧とする

その基盤づくりだが、根幹となるカフェ事業では、最初に参加した高校生たちが卒業して人数が少なくなったこともあり(現在10名)、営業を強化するために新たにスタッフを一人増やした。さらに、高校生と地域のつながりを深めるため、カフェの外での活動にも力を入れた。たとえば、飲食やイベントを楽しめる仮設型施設オープンイベントや地元の大きな夏祭りである川開き祭りなどでの出店、ホヤ養殖の準備作業へのボランティア参加、石巻青年会議所主催のイベントに参加する各店舗の魅力や特徴の取材・情報発信なども行った。また、地元企業や生産者と一緒に、商品開発にも取り組んでいる。

地域とつながりつつ、成長の場、学びの場にするという当初の目的を再確認する意味も込め、昨年4月から月一回、自己分析、目標設定、チームビルディング、接客、コミュニケーション、フィールドワークなどをテーマにしたワークショップも実施した。「テーマによっては講師を招き、密度の濃いものになりました。高校生たちも真剣に取り組んでいました」と、神澤さんは話す。さらに、8月には地域のためにできることについて改めて考えるための合宿も行ったという。

「カフェに参加している高校生は、地域に出て、そこで生きる大人たちに接することで、改めて石巻の魅力が発見できたり、地元が好きになったりする。それを商品開発につなげたり、いろいろな場面で情報発信することで、地域を元気にしていきたいと思うようになります。短い時間でも彼らが成長していく様子がよくわかります」と、神澤さんは話す。



地元で開催されるお祭りなどにも出店



講師を招き自己分析や目標設定などを学ぶワークショップも開催

助成団体: かぎかつこPROJECT

<http://kagikakko.jp>



いただいた助成で今後の活動のための基盤づくりができました

おかげさまで2016年4月からNPO法人として活動できるようになりました。今後はカフェ事業だけでなく、教育機関、地元企業、生産者などとの連携を深めながら、高校生たちが地域とつながることができる機会をより増やしていきたいと考えています。助成はワークショップ開催費用、イベント出店資金などに有効に使わせていただきました。ありがとうございました。

かぎかつこPROJECT
神澤 祐輔さん